

令和7年度 地域創造学の全体総括

住田町教育研究所

1 本年度の成果（ステージを貫く成果）

（1）「主体的な学び」の深化

- ・体験活動の充実により、地域と自己を結び付けて捉える学びが各校で展開された。
- ・課題設定において、地域の実情やニーズを意識する姿が小・中・高を通して見られた。
- ・個人探究を軸としつつ、学級・縦割り・校種間交流を通して思考を深める取組が定着しつつある。

「調べる」段階から「自分事として問い直す」「行動化・発信へつなげる」段階への発展が見られた。

（2）ステージ間・校種間の連続性の強化

- ・小学校間の交流発表、中学校での縦割り発表、高校でのステージ間交流など、学年間・校種間のつながりが意図的に位置付けられた。
- ・上級生の姿から学ぶことにより、探究の質（課題設定・発表方法・当事者意識）が高まった。
- ・高校では小学校への出前授業や地域イベント企画等、学びの循環が具体化した。

「縦のつながり」が、地域創造学の質を高める重要な要素であることが明確になった。

（3）探究的な学び方や個人探究の学び方の共有と発展

- ・名人カードの活用、ポスターセッション形式の工夫など、各校で探究の進め方の工夫が見られた。
- ・中間発表会や報告会の実施により、学びのプロセスを可視化する取組が広がった。
- ・高校では「住高の地創」の型を模索し、学校としての統一感を意識した運営が進められた。

各校の実践が積み重なり、「住田型探究」の輪郭がより共有されるようになった。

2 明らかになった課題

（1）切実な問いの創出

→子どもにとって必然性のある切実な問いが自然と立ち上がる単元構成の工夫が必要である。

考えられる手立て

- ・「体験→すぐ調べる」ではなく、「体験→違和感の共有→問いを深める時間」などの単元構成の工夫。
- ・体験前の予想の時間を大切に、「困った」「ずれている」「思っていたのと違う」を可視化。
- ・事実の提示、確認に終始しないよう、教師による「揺さぶり」のある授業づくり。
- ・地域理解や探究のプロセスについて、他地域との「比較」を取り入れることによる深化。
- ・地域住民、行政、企業、子ども、子育て世代、高齢者など、視点を変えた多角的な問いの吟味。
（第3～5ステージ向け）
- ・結論に近づくことに固執しすぎず、「まだ足りない」を自覚できるような考え方の育成。

（2）振り返りの質の向上

→学習のプロセスや資質・能力の伸長を自覚できる振り返りの在り方を再検討する必要がある。

考えられる手立て

- ・「思考の変化」に注目し、考えがどう変わったかを振り返り習慣づくり。
- ・「課題設定力」「情報収集力」「計画力」「協働性」「発信力」など、資質・能力対応型の振り返りの一層の重視。（名人カード、学びのコンパスの活用の継続）（教科全体で育成するなど）
- ・自己評価に加え、子ども同士や教師による他者コメントの導入。

(3) 持続可能な運営体制

→異年齢交流、異校種連携を意欲の発火点としながら、主体的で自由度の高い探究を支援する学習設計を模索し続ける。(目指す資質・能力、教科の目的はぶれないようにする。)

考えられる手立て
・子どもの体験や情報収集をもとに、教師は問いの種を(時機を捉えて)蒔き続ける。 ・子どもが休日で家族と調べるなど、学校外での自発的に活動する学習を肯定する。 ・上級生の姿から刺激を受ける、下学年とかかわることで相手意識を学ぶなど、世代循環モデルを加速する。 ・部活動や縦割り活動のように、先輩が後輩に学習の仕方を教えられるようにしていくことで、子どもたちを地域創造学の語り部として育てる。(新任の先生に教えたいくなる仕掛け) ・各校の活動の課題点を把握し、年度内や次年度構想においてマイナーチェンジを模索する。

3 次年度に向けた方向性

(1) 育成を目指す資質・能力の明確化

(2) 探究プロセスの質のさらなる向上

(3) ステージ間連携の計画的推進

(4) 発信力の強化

・地域・他校種・外部機関との接続を通して、学びを社会に開く。

・ICT環境を活用し、記録・共有・発信の質を高める。

(5) 地域創造学を足がかりとした教科全体の学力向上



4 まとめ

本年度は、教育課程特例校としての在り方を模索した。各校がそれぞれの段階で主体的な探究を推進し、創意工夫により「地域とともに学ぶ」姿がより具体化した。第1～2ステージは地域理解に重点を置きつつ、第3ステージからより自由度の高い探究を試行錯誤し続けた。

今後は、より質的深化へと歩みを進め、教育課程特例校として、より持続可能で子どもたちに力をつける地域創造学を目指していく。

地域創造学は、完成された形があるものではない。私たち自身が問い続け、試行錯誤しながら創っていく営みである。子どもたちは確実に変化している。学校現場と行政と地域が一体となって学び続け、住田町だからこそできる挑戦を、共に考え、共に創っていききたい。